

令和4年度学校関係者評価 報告書

2023年4月8日

専門学校日本デザイナー芸術学院

評価期間

自：令和4年4月1日

至：令和5年3月31日

学校関係者評価委員会 次第

- ・開会
- ・出席者紹介（評価委員、学校教職員）
- ・校長挨拶と学校概要説明
- ・自己評価結果の説明とその評価 [成校長]
- ・2022年度教育活動とその成果 [教務担当]
- ・学生支援について（修学支援、キャリア支援、奨学金等） [教務担当]
- ・留学生の学修状況 [教務担当]
- ・学生募集状況について（2023年度募集） [学務課 大本]
- ・学校関係者評価の総評と意見交換
- ・閉会 日時 令和5年4月8日（土）10：00～11：30

場所 専門学校日本デザイナー芸術学院4階 404教室

学校関係者評価委員（出席者）

池内 裕史 様 （株式会社J S コーポレーション中部支社 支社長）
林 真利子 様 （愛知芸術高等専修学校 総合芸術学科教務主事/進路主事）
二川 健司 様 （日本語・外国語学校 I.C.NAGOYA 副校長）
山本 武司 様 （株式会社クイントエッセンシャル 代表取締役）
溝田 愛梨 様 （株式会社山崎デザイン事務所 デザイナー/卒業生代表）

成 光雄 （学校法人敬道学園 学校長）
大本 周平 （学校法人敬道学園 事務長）
山内 雄司 （学校法人敬道学園 教務課教務長）
下雅意 善規 （学校法人敬道学園 教務課所属）
石川 優子 （学校法人敬道学園 教務課所属）
小原 桃子 （学校法人敬道学園 教務課所属）
鈴木 ルリ （学校法人敬道学園 教務課所属）
大坪 智世 （学校法人敬道学園 教務課所属）

令和5年度 学校関係者評価委員会

進行：大本

■校長あいさつ

自己評価報告書は一定の書式に沿っているため、評価や判断が数値ではないがどこまで正しく公表できるかを判断いただきたい。

■活動実績の報告 山内

○教育活動その成果（受賞報告）

・CCC→グランプリ

名古屋芸大・造形大が出ていながらも1年生がグランプリ

・Cygames→キャライラスト賞

対業界向けのアピールにもなっている

・台湾国際コンペ

今後は国内外のコンペ参加を積極的にする

○就職報告 ▶クリエイティブ系：山内

・たき工房

電通など大手と仕事をしている会社。東京芸大など美大系がよく受けている。名古屋の支社は卒業生が何名かいるが、東京は初めて。3年制GRの初卒業生で、3年制のゆとりが良い方向に働いた。

・アークデザイン

IL イラストレーションを仕事にする事例となった。

・第一舞台

職員もこういう進路があるのかと驚いた。ものづくりの就職の可能性を広げた

・マーベラス

ゲーム系3年課程初卒業生。牧場物語とかを制作している会社。

・ルールブックス

PD 卒業生。映像関係でカメラマンとして就職。TV 業界はニチデの方向性だと厳しいと思っていた。

○就職報告 ▶エンターテイメント系：下雅意

VT はほとんど養成所やプロダクションへすすむ。本所属前に養成所生としてスタート。2022年度は預かり所属として2名C&O・ガジェットリンクへ送り出した。その他、卒業生

全員進路は決定。

★「就職報告」に対する評価委員のコメント

Q. 愛芸=林様

3年課程の学生は良い進路の印象を受けた。高校生も専門学校で2,3年と迷っている人が多く、3年課程のほうがじっくり学べる環境なのか？

A. 山内

ニチデは50年以上2年課程でやってきて、2年で充分だと思っていた時期もあった。しかし実際に3年課程をやってみて、じっくり就活する時間もあり良い影響はあった。

Q. 大本

留学生の視点で2,3年課程はどう思うか？

A. I.C=二川様

学習期間というよりは、その後の進路が大きいと思う。仮にイラスト系で就職できるのであれば、留学生にとっては2,3年の課程に違いはないと思う。

Q. I.C=二川様

2年課程を3年課程に変えるにあたって、2年間のカリキュラムを3年間かけて行うのか、2年間はそのままで3年目を就活にするのか？

A. 山内先生

2年課程は午前・午後の授業で密度が高い。3年課程は午前授業で半日授業になる。学校によって3年目はほとんど授業がなくて、就活だけの学校もある。ニチデ・ニチマは3年目もしっかり授業している。また学生の意識にも効果があり、2,3年生合同授業の際に、2年課程学生のペースに3年課程の学生が引っ張られて追いつこうとして良い影響を与えている。

○就職報告 ▶保育系：鈴木

指定保育士養成施設の申請が通り、3月に愛知県知事の認可が下りた。これにより保育士の国家資格が可能。豊岡短大との連携は続くが、保育士の資格は当学院から出せるようになる。卒業研究発表会では作品や絵本、演奏の発表を行った。

就職では、アート勉強を活かして絵画指導が評価されて学童へ就職実績がある。また、保育以外でも生活支援員として障がい者を支援する仕事にも就いている。7名全員進路が決定。また今後、新1年生カリキュラムに実習など現場での経験を組みやすくなった。

○就職報告 ▶その他：山内

・坪井花園

花屋ではあるが、インハウスデザイナーとしてお店作りや POP、HP などのデザイン業務もする。

・トーヨータイヤ

フィニッシュワーカーではなくブレーンとして入社。フィニッシュワークだけがデザインの仕事ではない。

就職については以上。

○産学協同 ▶クリエイティブ系：山内

白鳩=アンドマスク実用化。パッケージが評価され、商品化を予定。

○産学協同 ▶エンターテイメント系：下雅意

ここ 2,3 年はコロナ化で案件が少なかったが、イベントが増えてきたこともあり今年はいろいろと参加できた。今後もイベント事へは積極的に参加の方針。

・ミッド FM

毎週日曜（今週から土曜）月に一回収録。毎月 2 名を選出し収録。3 年近くやっている。

責任感が伴う厳しい環境で実習。声優以外の仕事、特にフリートークは求められているから成長につながった。

・講師の映画へ出演

演技の指導講師の映画でエキストラ出演（全国公開）。現場で見て感じることは成長につながり、今後も積極的に参加したい。

・サンミュージック

TV ドラマ（おばはん）へエキストラ参加

・その他

インターネット TV やイベント司会も参加。

★「産学協同」に対する評価委員のコメント

Q. 大本

産学協同に関する他校の事例はあるか？

A. JS=池内様

学生・広報のためになるので、他校も力を入れている。また、そこに就職ができる可能性も広がる。事例ではないが、産学協同の中身を具体的に外部へアピールすることも必要。今の学生のトレンド（どんな業界・会社が人気か）を抑えて産学協同できればより良い。

Q. 大本

産学協同前後での学生の変化は？

A. 山内

プレゼン能力が向上。学内だと仲の良い人と甘えた環境になるが、企業を前にすると大人ぶって緊張感がでて締め切りを守ることもなども再認識できる。

Q. 大本

現在のデザイン業界で新卒に求められるものは何か？

A. 山本先生

コミュニケーション能力・自分の考えを伝えるプレゼンテーション能力が必要。アドビの記事でもあったように、一般企業でもクリエイティブスキルが求められている。制作能力・創造性が上がって、いかに第三者に伝えられるか、言語化できるかを求められている。

ChatGPT など AI がある時代でツールをいかに使いこなせるかもそうだが、「何のために必要なのか」=コンセプトワーク・企画立案能力が必要になってくる。製造業でも社内デザイナーじゃない人もイラストやデザインができる人も出てくる。しかし、8割が AI でも 2割はプロの精度が必要。

まとめると、「コミュニケーション能力・企画立案能力・プロとしての技術力」の三点が必要

Q. 大本

デザイン・イラスト系志望の生徒や保護者の AI に対する反応

A. 愛芸=林様

生徒の意識はまだ薄く、保護者や先生は少し不安がある。だから業界を目指す生徒こそプロの教育が必要。

Q. 大本

学生時代にやっておけばよかったことは？

A. 山デ=溝田様

絵を描くことやコンペ参加は学生ならではで、やりたいことができた。就職後は商業的なものがほとんど。見た目だけではなく、デザインのその後にどういう機能（SNS に繋げるなど）があるのかも学べたらよかった。

→山内

ブランディングは、ビジュアル的なものだけでなく「考え方や方向性にもわたるもの」だということが一般的にも理解されていない。学校全体の方針として「ストーリーを作る」ことを意識させたい。

→成校長

専門学校で学ぶことと社会のギャップが少ないのが理想。しかし、学生が「消費者」から「作り手」に変わる過程だからこそ、スムーズに移行する期間であってほしい。デザインを考えるのは好きでも、社会では伝える力・説得力が必要。では学生が最初から社会のやり方をやりたいか？といわれると、そうではない。学生がやりたいことと、実社会の経験をバランスよく経験させたい。

今後は SNS の対応ができるクリエイターが必要。常識は常に変化しているので、学校は追いつかなくてはならない。また、AI に職業奪われることはないだろう。だが、それをどう保護者や学生に伝えるかが課題。AI の進化はとても早く、その進化に人間の価値観がどう移り変わるかも追いかける必要がある。

Q. 山内

山崎デザイン事務所で AI の話はあるか？

A. 山デ=溝田様

山崎デザインでは AI はあまり使わない。だが、対策や勉強は必要。

→大本

大学と比較すると、専門学校は小規模。だから、その特色を生かして時代の変化を追いかけやすい。

○学生支援 ▶奨学金 石川

説明会等を何度か実施。奨学金制度として前年より大きく変化したところはない。在学生の 1/3 が何らかの奨学金を使用。さらにその中の 3~4 割は給付奨学金を使用。次年度には変化の見込みがある。今年度は引き続き適宜対応等おこなっていく。

→山内

奨学金は手厚くケアしている。進学ができるかどうかの高校生にも相談に対応。また、認可校・無認可校の違いをアピールしていく。

○学生支援 ▶キャリア支援 山内

会社説明会・ポートフォリオ指導・面接対策など実施。また、2022 年度は Zoom での会社説明会が増えていた。

東京持ち込みツアーの実施・東京の進路開拓も実施。マンガコースの出張講習会は例年より少なかった。

○学生支援 ▶留学生の学習状況 山内

40名ほどの留学生が入ったが、コロナ化で母国からの送金が滞り、離脱してしまった人はいたが、無事に業界就職もできた。ダクシタさん→LA-VIE（ブライダルフォト系）の会社で就職。

インタビュー動画視聴

留学生がクリエイティブ系での就職は本当に難しい。その中でも実績を残せた。

★「学生支援」に対する評価委員のコメント

Q. 大本

さっきの動画を各国の留学生や先生へ見せたらどんなふう感じそうか？

A. I.C=二川様

就職実績は非常に大きい。海外で学生募集の際はパンフを使うことが多いが、どんな進路があり、どんなものを作るのかが知りたいと思う。こういう動画は効果がありそう。

教務報告は以上

■自己評価報告書 成校長

○4P 2項「本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」

学習のやり方が大きく変わった。昔からのアナログ的な授業もあるが、IT化とともに、自分のPCがないと不便になってきて、個人PCを導入。だが、PC教室はある程度必要だから、2教室を残した。今年度から学生全員が個人PCを所持になり、それに伴いインターネット環境等の環境改善が実施できた。

指定保育士養成所の認可がおりたことで、今後より学校の自立性・独自性を出せるようになり、保育士資格も発行できるようになる。だが、豊岡短期大学とは幼稚園教諭免許の関係もあるので引き続きパートナーシップを結んでいきたい。

○7P 6項「施設設備に関すること」

2022年度をもって、教室の整備（PC教室の削減・インターネット環境の改善）が完了した。しかしその分、トラブルに対応する人材や、機器の管理がより一層重要になる。対策としては、可能な限り国の支援を利用し強化する予定。それが広報活動の要素にもなる。

○10P「総括」

コロナ禍でどれだけ学生にとって正常な学校運営ができたか。

2022年度の行事は、海外研修以外は実行できた。移動手段が鉄道を割けてバスをチャー

ターや、手指消毒等の対応はあったが、学院際や研修の行事を実行できた。

しかし、それらを経験ができなかった学生も一部でいることは残念に思う。学校としては国の方針等に従い段階的に対応する。

○学生募集活動 大本

出願人数の報告。ニチデ・ニチマの2校合計で前年比74%の156名。外的な要因も大きく響いていたと思われ、高校生の人数減少や大学への進学増加などがある。また無認可校もその一部と思われ、対策としてその違いを高校生と保護者へ徹底説明をしている。

2024年度の募集に関しては、ニチマのカリキュラム変更がある。従来の2年制は継続しつつ、午後授業という選択肢も追加。2,3年・午前、午後の選択肢で入口を広げる。

留学生へも高校訪問等、積極的にアプローチする予定。

★評価委員コメントなし。

■意見交換会

教務の先生より業界の聞きたいことを質問

Q. 山内

需要があるはずのPDが一番苦戦している。学生は映画やTVを見ず、ショート系ばかりを見ている印象。高校生の動画に対する関心はどうか？

A. 愛芸=林様

映画・TVは見ない。TikTokやYouTubeの動画視聴が多い。また、生徒もスマホで動画を撮影・編集していて、簡単に手軽に動画制作ができる時代を実感している。

I.C 二川様

外国人留学生の2023年度卒業生は非常に多い見込み。2022年度入学の留学生が多く、卒業を迎える2023年度の受け入れがしやすい年になるだろう。しかし、日本に滞在するために進学を選択する人もいるため、留学生の入学目的をみるのも重要。

Q. 大本

留学生の傾向として「デザイン」希望はあるが、日本人と外国人の「デザイン」という言葉の認識の違いはあるのか？（デザイン≠ファッションや映像など）

A. I.C 二川様

例えばネーパールでは、「デザイン」は映像分野の認識が多い。「映像」という言葉では、何を勉強するのだろうか？という認識になる。留学生が分野・学校のことを深く調べないのも要因だとは思っているので、さっきの動画みたいに成果物と進路を見せるのが有効だろう。

終了。